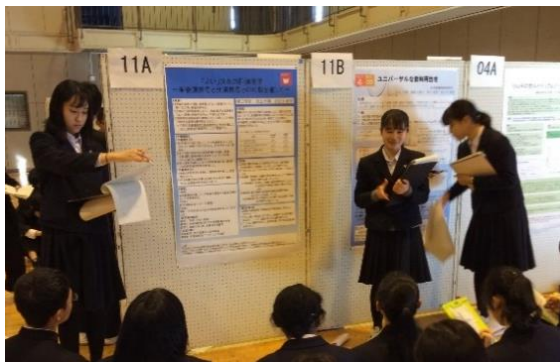


探究活動中間発表会特集

探究活動中間発表会を終えて 二年 普通科 女子

11月13日に、探究活動中間発表会が行われました。私たちの班では、「『よい』演奏の評価基準～演奏者と非演奏者を比較して～」と題して、発表を行いました。研究では、アンケート調査を中心にを行い、得られたデータを基に、演奏経験者と未経験者で演奏の評価基準にどのような差があるのか、また、なぜ差が生じるのかを考察しました。中間発表では、私たちの研究に対して、生徒や審査員の皆さんから貴重なご意見をいただくことができました。今回の発表で得られた課題を改善し、三月に行われる本発表に向けて準備を進めていきたいと思っています。



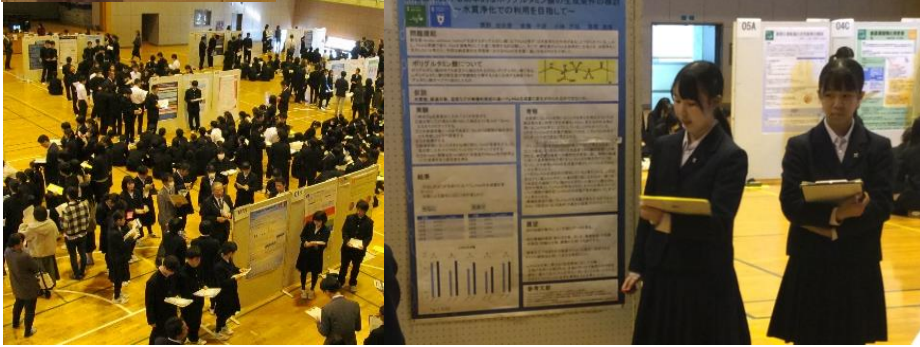
探究活動中間発表を終えて
二年 理数探究科 男子

私たちの班は環境DNAの手法を用いて、絶滅危惧種に指定されているゲンゴロウの生息域を調べるための研究を春ごろから半年ほど行ってきました。今回の中間発表では研究の時間が十分でなかったため、まだまだ研究の余地がある状態での発表でした。私は大勢の人の前で喋る機会がなかなか無いので、上手く発表できるかとても不安でした。しかし、班の仲間と協力してこれまでに得られた結果について精一杯発表しました。おかげで私たちは優秀賞を取ることができました。仲間との努力が報われてうれしかったです。また、今回の発表会では自分たちの研究を報告するだけでなく、他の班の発表を聴いてどのような研究をしているのか知ることができました。来年の三月にはSSH校内生徒研究発表会があります。今回の発表会で得た経験を活かして、より良い発表ができるように研究をがんばっていききたいと思います。



これからの課題研究を見据えて 二年 国際探究科 男子

はじめに、今回の中間発表会において最優秀賞をいただきましたこと、大変光栄に思います。特に国語領域からこのような結果を残すことができたことを嬉しく思います。私は、「好印象を与える和歌の特徴」というテーマで研究を行いました。時代区分による好感度の変化をアンケートで調査し、結果に影響を及ぼした要素を特定するというものです。個人研究であったため、歌集の中の膨大な短歌から条件にあうものを見つける作業に多くの時間を要しました。今後の展望として、この研究の目的でもある、広告への和歌の応用を探究していきたいと考えています。中間発表までに得られた成果や課題、加えて発表を通して感じた様々な課題も次につなげ、よりよい研究を完成させていきたいと思っています。



探究活動中間発表会を終えて 二年 普通科 女子

私たちは、課題研究(SSR)でサボニウス型風車に関する研究を行ってきました。サボニウス型風車とはフィンランドのサボニウスが考案した、円柱を縦に二つに切った形をした羽根を持つ垂直軸型の風車です。実験は、厚紙やお菓子の箱を用いて円柱と他の様々な形の羽根を作り、それぞれの電力を比較しました。すると電力は、大きい順に円柱、三角、楕円、四角の羽根という結果になりました。実験は特に電流計につなぐと回転しにくくなってしまったので、どう風を当てればうまく回転するかを見つけるのが大変でした。また、予想に反して、四角の羽根は回転しなかったことに驚きました。研究を通してたくさんの発見があり、いい経験だったと感じています。中間発表会では優秀賞をいただき、今後開催される山形県探究型学習課題研究発表会および東北地区サイエンスコミュニティ研究発表会での発表の機会を得ることができたので、もっと精度の高い実験を行い、課題を一つひとつ解決できるよう、試行錯誤を重ねてがんばっていききたいと思います。



11月13日、本校記念講堂および体育館を会場に探究活動中間発表会が開催されました。スーパースサイエンスリサーチ(SSR)として探究型学習での研究内容について、半年間学んできた2年生がポスター発表を行いました。(外部による審査あり。)また、審査とは別に、今回特別参加した山形大学人文社会科学部3年生によるポスター発表12点も行われました。審査の結果、今回入賞した8グループには、以下の出場権が与えられました。山形県探究型課題研究発表会(12月21日会場ビッグウイング 審査対象5・審査対象外3 各々ポスター発表)、東北地区サイエンスコミュニティ研究発表会(1月24・25日会場山形県立東桜中学校・高校 口頭発表1・ポスター発表2)これらのうち上位5グループについて特集します。なお、SSHは3月に行われるSSH生徒研究発表会まで行われます。

科学を通して学んだもの 二年 理数探究科 女子

先日探究活動中間発表会が行われ、それぞれが興味を持って取り組んだ研究の成果を発表しました。私は納豆菌に関する研究を行っています。研究をはじめたころは分からないことばかりで、試行錯誤を繰り返す毎日でした。行き詰って悩むこともありましたが、それでも進めていくうちに「工夫し考えること」・「分析し反省を次に生かすこと」が大切であることを知り、研究の面白さを味わうことができました。そして緊張と不安で迎えた発表当日。ドキドキしながら他のグループの発表が始まりました。どのグループも熱心に研究成果を発表し、聞く人も積極的な質問を行い会場は活気に満ち溢れました。私もいつしか緊張よりも成果をしっかりと「伝えたい」という思いが勝り、堂々と発表することができました。そのときに先生方や審査員の方からいただいたアドバイスや意見は次につながるとても貴重なものとなりました。研究活動や発表を通して学んだり、身につけたものは、社会の中でも生かせる大切なスキルだと思います。今後も貴重な経験を生かして、さらに探究を続けていきたいです。

